
三菱重工、中国スクリー冷却機最大手と合併

Edited By LogisticsToday On 2013/04/12

三菱重工業は12日、中国のスクリー冷却機最大手「大連冷却機」(DRC)と合併で、7月にターボ冷却機の製造・販売・サービスを手掛ける新会社を大連市(遼寧省)に設立することで合意、合併契約を締結した。

世界最大のターボ冷却機市場である中国国内に製造拠点を確保することにより、コスト競争力を高め、中国内での販売拡大に取り組む。

合併会社「菱重冰山制冷(大連)」の資本金は8000万元(12億円)で、出資比率は三菱重工側が55%、DRC側が45%となる。

三菱重工は新会社に中型、大型ターボ冷却機の製造に関するライセンスを供与し、DRCの工場敷地に1万2000平方メートルの工場を新設する。2014年4月に工場を稼働させ、年間500台の生産体制を整備する計画。

同社が製造するターボ冷却機の中国国内での製品の販売・サービスは、三菱重工の中国冷熱事業を統括する三菱重工空調系統(上海)が担当し、中国全土に展開している販売網を活用して販売拡大に取り組む。

また、三菱重工は自社の販売網を通じてアジア・中近東を中心に広く海外で販売することによって、新会社を世界市場向けの生産・調達を担うグローバルソーシング拠点に育成していく。

Article printed from Logistics Today | 国内最大の物流ニュースサイト : <http://www.logi-today.com>

URL to article : <http://www.logi-today.com/64535>

Copyright © 2020 Logistics Today | 国内最大の物流ニュースサイト. All rights reserved.